## うかまちか 特派員のペ

# 先人の知恵の結晶 秘技を探ってウォーキング

その中の一つ「秋の信楽高原ウォーク・窯元散策、信楽焼を観る」に参加、 伝統800年の信楽焼の技を見学しました。 この日はあいにくの雨模様でした

この日、たぬきは一日お休みでしたが、いくつかのイベントが行われました。

11月8日は、信楽焼のたぬきが一斉に休む「たぬきの休日」。

使われなくなった登り窯を見ることが ながらゆっくりと歩きます。途中もう 策路になります。ガイドの説明を聞き 落ち着きと力強さを表わしています。 できます。黒いすすがたき口あたりに と新宮神社、その脇道を上ると窯元散 信楽駅前からまっすぐ10分ほど歩く 約40人の参加者が集まりました。 丸い屋根の形や乾いた土の色が

と焼間(焼成室)を分離したので良品 の時代の信楽焼を「古信楽」といいま たようです。登窯は、火袋(燃焼室) 火で品物を焼いたので良品率が低かっ が使われるようになります。穴窯は直 す。江戸時代(1700年頃)に登窯 火をたく材料に恵まれていました。こ ったようです。その頃は森林が豊かで を掘った穴窯です。鎌倉時代から始ま 信楽焼の最初の窯は斜面にトンネル

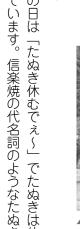
> が主流になっています。 どを使う窯を経て、現在ではガス窯 格段に向上しました。その後、 率、生産性が飛躍的に向上しました。 石炭、 燃費も 石油な 電気窯

のに変容することに深い感動を覚えます。 つ土の配合、水分量、土に触れる手指の動き 作家の工房を見学しました。異なる性質をも と計算されたものが火を得て思いがけないも 電動ろくろを回して作品を創りあげていく

昼夜たき続けるとのことです。 て窯の向こう側へと突き抜けていきます。 炎と黒煙が一つになり、大きなうねりとなっ さに木々を火の中に入れて焼成中。真っ赤な 道を15分ほど登ると県立陶芸の森に到着。こ ます、お茶などをいただきました。午後、 しでは再現された穴窯を見学できました。ま 昼食は谷川会館で。おいしい豚汁、柿のな Ш 四

を楽しみました。信楽狸八相縁起が唄われま 神社の境内に戻り、舞台で奉納、 ウォークで伝統の技を見学した後は新宮 信楽狸囃子

て休みの日を設けたのです。初めて休みをもら い元気になってますます丸い目をしている? の置物たちに感謝といたわりの気持ちを込め 息しています。信楽焼の代名詞のようなたぬき この日は「たぬき休むでぇ~」でたぬきは休







▲信楽狸囃子が行われる新宮神社